京城新報

面及洞に關する舊慣制度（六）（朝鮮總督府調査）

面洞制度に關する甲午の革新

（其二）

（四）聯合會議　面内數里又は數面に關渉する事項あるときは關係各里又は各面聯合會議を開きこれを假りに稱して聯合會議と稱す

（一）聯合里會　數里に關渉する事項あるときは關係各里會員及該面執綱之を合議す

（二）聯合面會　數面に關渉する事項あるときは關係各面執綱及尊位之を會議す

（五）面及洞の事務費　面及洞の事務費は其の面及洞の負擔とす

（六）鄕會條規及辨務規程の不實行と其の原因　鄕會條規及辨務規程に依れば面及洞の性質機關の組織權限等より議事の方法に至るまで頗る明確にして整然たるものあり然るに該法令は遂に實行を見るに至らず而して之が原因と認むべきは當時の中央政界は變轉極りなく諸般の政令は朝令暮改の狀態にありたるを以て該法令も亦其渦中に投せられ一度發布されたるも忽ち政界の變動に遇ひ其實行を停止されしもの其の一原因にして該法令は素より深く古例舊慣を調査し當時の實況に鑑み制定せられたるものなるべしと雖も實際の發達之に伴はざりしものあり所謂砂上樓閣を築きたるの感なきにあらず之れ其實行を見ざられりし第二の原因なりとす

以下面洞の實況に就て記述せんとす

甲午後に於ける面及洞（一）

甲午の制度は遂に空文に歸したりと雖も其後に於ける時勢の推移は我が顧問制度となり又統監政治となり諸般施政の改善に伴ひ面洞行政も亦多少の影響を來せり即ち樞門勢家の漸次其の翼を收め郡衙、吏屬使令輩の面事務に干與するの弊其の跡を收めんとするに至りし之が結果として機關の組織を簡易ならしめ又其の名稱に變更を來せること其他從來の弊害にして漸次除去せられたるもの亦少なからず今甲午以後に於ける面洞の組織を次號に示すべし

●群山通信（二）　愛水生

●斯様に米界の前途は益低落の趨勢を現して朝鮮米の如きは今に其販路にも窮せんとする折柄朝鮮米にとり實に喜ぶべき慶すべき福音は忽焉として天の一方より傳へられた。

◎何であるかと云へば則ち過日來の雨にて南清長江一帶の地悉く大洪水となり米作に凶歉を來せし結果米の需要騰然として加はりしとのことであるが之が爲め香港及上海は云ふに及ばず印度方面迄も影響を及して米價著しく騰貴し爲に内地市場の外國米の如き悉く前記の水地方面へ逆輸せられ尚機敏の淸國商人は内地か豊作の結果米價大々低落すべきを見越し大々的に買入の準備をさへ爲しつゝありとの報傳へらるゝが距離及價格の點に於て内地米に比し遙に優越の地位にある朝鮮米は此好機を逸せず宜しく大に活動を試むべき最好の時期である。

◎株を守て兎を待つと云ふが如き商賈の遣口には明治の商人然も文明の空氣を呼吸せる者の爲すべきことではない何人も現時の役に處しては宜しく他動的よりも自動的に出でざる可らず由來群山人士は優柔不斷にして只目前瑣細の利欲のみ斂しとの評あり先ずれば人を制し後るれば人に制せらる群山當業者たるもの今日の場合に於て猶徒に内地との取引にのみ腐心するは與に感の極である進んで眼を世界の大勢に放ち桔据砕勵以て自家の地歩を作らざる可らざるの時である。

雜錄

●韓山夜語（一）　ケー、エッチ生投

寺内さんも今度は專任の總督となつて來られる事だから互に心強いと云ふものだが何せこゝの坊ちやんも丸腹にあるときから随分手數を掛けたものだが、早いもので生れてからもう數へ年の二ツ、漸く少しは這ひ/\も出來る様になつた、是からが守役の骨が折れるところで、やれ風邪を引いてはならぬと云ふて無暗に着物ばかり掛ける考へものだし、今の幼さなでれ行儀/\と云ふて要らぬ智惠を付けるのも却てわるい、されはと云ふて少し這ひ出さうものならすぐれつねり、又何かいたづらでも仕様ものなら大きな眼で睨み

文苑

○折にふれて　松琴生

露ふみてそゞろあるきの菜園に太り眼につく秋茄子かな

○

我心千里の馬の背にのせて千草の花の野邊や行かまし

○

草の中あさりつくして落栗の見あてぬ悔を友とかたらふ

○

秋の田を守る案山子も高麗よりの冠りかたげていかつげに立つ

○

はたすゝきはやはにいでゝしめやかに秋を手招く野邊の朝風

○

流勢の岩に激してつゝ琴の音にかよへる秋の山川

外事一束

▲墺國　は伊太利がアドリアチク海沿岸の兵備をなさざらん事を希望せりと

▲駐土獨大使は獨帝の回答を土帝に告げ好意的に事局解決に努む一般樂觀

▲葡國　王黨崛起し兵數千砲數門を率ひ行く々共和黨員を掃討して進むと

▲蒙古　に新政を布き増税し清人移住を奬勵し爲に騒亂起り露國派兵事態急

▲四川　暴動重大諸都市を陥落し其數三四萬と號し湖北又命革黨入り中清亂

▲安奉　線乗入に對し國防上より杞憂し清國抗議す滿鮮直接聯絡前途多難也

▲米國　農具會社の上地租借は虚なるも利權を獲んと努力しつゝあるは實也

◎新刊紹介

◎東京經濟雜誌　小林博士の「取引所法改正要點」山本氏の「淸國憲政の前途」嗜山人の「有名無實なる減債基金」外數種の社説及雜報何れも讀むべし（一部十二錢東京々橋區彌左衛門町東京經濟雜誌）

◎ニコ/\　口繪數葉見るからにニコ/\と禁じ得ず「石の上にも三年」「經濟界とニコ/\の妙味」「ニコ/\せる新臺閣の諸公を訪ふ」等讀むからにニコ/\を禁じ得ず（一部十錢東京々橋區南金六町ニコ/\倶樂部）

◎家庭の友　『新日本の新正花』『花より見たる家の粧飾』『金持になつて家庭の平和を破壊されし妻の嘆き』『婦人の言葉で其の國の盛衰が分る』等何れも趣味ある文字なり（一部十錢東京本鄕區東片町新公論社）

◎朝鮮家庭新聞　社説『二種の家庭』面白し活來の大活動は愈々端緒を發表し讀者をして次號の出づるを翹望せしむ『女學校を出でゝからの記』は愈々佳境に入る（一部四錢京城南山町三丁目朝鮮家庭新聞）

梁川庄八（やながはしやうはち）　小金井蘆洲演

第四回



松川の戦は暮合の頃より一層激烈に成りまして、大砲の響き矢叫の聲山谷に反響して實に天地も崩るゝかと思ふばかり、上杉景勝は郡山と云ふ處に本陣を据へ三千五百の同勢隊伍整然として、竹に雀の定紋付たる旗六本白地に毘沙門の毘の字を現はしたる大纛青龍の題より黒白の火を吹出したる大馬印を、飜風に飜し、大將景勝威儀儼然と床几に掛つて中央に控へ、合戦勝利の吉報を聞て欣然として居る、梁川庄兵衛は小高き丘に登つて、小手を翳して此容子を見屆け　庄「ヤア/\面々我々最期の場所は彼處なるぞ、幟を立てれば味方小勢を悟らるゝにより人は枚を含みヲ/\掛に斬込んで縦横無盡に突崩せ我大將の危きを救ひ奉るは茲一戦にあり」と激しく號令を下し、庄兵衛自ら眞先に進んで景勝の本陣の小荷駄脇から一齊に斬込だり、固より決死の猛夫なれば、死ねや/\と呼はりながら面も振らずに斬込ましたから、上杉勢は驚いた兵の多少は判らず、仙臺勢やら或は最上勢が襲來したのか、薩張判らん、勝誇つて勝利の吉報を聞度に祝盃を擧げて充分油斷の所であつたのですから、周章狼狽する混雑の中を、東西南北の厭ひなく斬捲る庄兵衛の働きは非凡でした、景勝は固より機敏な大將ですから、這は容易ならぬ優勢の敵が責懸つたに相違ない、と賊違ひをした豈夫に梁川が必死の小勢とは思はぬから、自ら馬に打乗り一先つ白河まで引揚げん、と俄に本陣引揚の號令を先手に示して引揚げました、其時上杉勢は周章た者と見へて、本陣に立置たる竹に雀の旗六本を置去りにして行つた、庄兵衛大に悦び、是れ屈竟の獲物なりと分捕りとし、味方の人數を調べて見ますと、大部打れて殘るは僅か五六十人と成て居る、馬卒は最早討れたらうと見れば、喘ぎ/\に成て控へて居るのです、死に角僅か百人内外の人數を以て、三千五百の兵を駈散らしたので御座いますから、庄兵衛正繁手の舞ひ足の踏む處を知らず、思はず鯨波を擧げた、然るに此方は上杉勢の先手には、俄に本陣に敵が斬込んだと云ので急にブウー/\と揚貝を吹いて、引揚げの號令が掛りましたから、無據圍を解いて止を得ず引揚る事になりました、昔の戦爭は敵と組打をして今其首を取ろうと云時でも、引揚の下知が下れば命を助けて引くと云のが、戦爭の掟法に成て居たのです、若し其時に首を取て行けば軍規に戻るのです、夫ですから戦爭の中でも儀義を重んじた者です、倖なるかな伊達政宗は九死に一生を得て、漸う/\福島まで引揚げて愛に休息を致しました、梁川庄兵衛は大將の危急を救はん爲に敵の本陣へ危險を冒して斬込んだのだから、政宗の圍は解け味方は引揚げた容子だに依て殘兵を率ゐて間道を抜けて福島城まで刀を杖に喘ぎ/\引揚げて參りました見ると大將政宗は城中に入て休息をして居る、大手の橋は燒落してある、譲端に藻庭周防守正盛入道月海が、討洩されの人數を纏め、篝火を焚いて陣取て居ります、所へ梁川は參りまして藻庭に會つて、合戦の模様を具さに物語り、分捕りました旗六本を主君へ取次を願入ますと、適なる功名比類なき御手柄早速主公へ御取次奉ろうと、請合て呉れました、藻庭は心中に口惜不和の間柄ですから、嫉ましいが陽には擧めた、庄兵衛は戦は充分の勝利を得て、分捕つた旗も主君に奉まつり、復命も濟んだから、茲に初めて勇氣砕けて、部下の者を慰勞て其夜は藻端に刀枕に前後正體なく寢みました、其中に夜が明ける、敵は寄せて來ませんから斥候を放て動靜を探らせますと、既に會津へ引揚げたと云趣きでございますから、此趣を政宗に申上げる、政宗も然らば一先仙臺へ引揚げんと、同勢を纏めて引揚げました、茲に藻庭周防は、此度の梁川庄兵衛の働きを申上げれば、必然彼は異數の御取立となつて家老の席にも加はる程の出世になるだろう、彼の高慢無禮なる奴に大祿を賜り、出世をさせるは癪に障る、且つ自分の地位も、由々敷大事なりと、内心至て穏かでない、種々考へた末に、軍監戦目付の角の目小太郎渡邊壽藏の兩人が莫大なる黄白を以て、買收した兩人も權威並びなき家老ではあるし、此人に睨まれゝば身が立たない、依て盲從して仕舞ひました、此兩人に云付て梁川庄兵衛の戦功を戦場日記から削らせて、上杉の本陣から分捕た竹に雀の旗は方可に自分の手で分捕たとも出來ないから、何者の手にて獲たのやら更に曖昧な事にして了ひました

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年（紀元二千五百七十一年）
本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金[illegible]▲一ヶ年前金[illegible]▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲[illegible]
同金（七字詰一行金七十五錢）
發行兼編輯人 高本久太郎
印刷人 松久輝一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

京城新報

京城民團 道路擴張建議 政府の採用を望む

豫て問題となりをりし京城市街道路擴張費に就て、京城民會は既報の如く、本町一丁目より南大門通りに至る市街道路擴張費豫算十二万圓、本町一丁目より光熙門に至る所謂泥峴街路擴張費豫算六十三万圓、南山町四丁目より南大門裏通りに至る人道開鑿費豫算四萬五千圓、龍山麻浦間漢江沿岸道路開鑿費豫算三萬圓合計八十二萬四千圓の內四分の二を國庫支辨に仰ぎ四分の一を民團費に四分の一を沿道土地所有者に於て負擔するの計畫を立て、其筋に向つて建議をなす可く決議し、建議書は既に五日を以て古城民長の手より京城府廳に提出せられたれば、該建議書の總督府に進達せらるゝも蓋し遠きにあらざるべし。之に對する總督府の意嚮は吾人の知る能はざる所なるも、市區改正の責任が當然政府に歸すべきものなるを知らば、政府に於て之を拒斥するの理由なきなり。何を以てか市區改正の責任者を政府となすか、元來都市は國民集團の典型にして、廣き意味より言へば、一國の文明程度は總て此都市によつて表示されつゝあり。然れば國家と都市此二個の命題は歸着する所一にして、國あつて民、民あつて國と云ふと毫も異ならず。而も都市の壯麗は即ち國家の誇りたるのみならず、都市は外國人の觀て以て國民文野の岐る所を知るの標準點として目せらる。故に政府は國家の威信を保維するため都市に必要なる施設をなさざる可からず殊に殖民地にあつては、殖民政策の第一義として政府は領土經營上又移住民の招致上在來の都市は之を完全のものとなし且つ不毛未開の地には國民の集團を造らしむべく奬勵するの覺悟なくして可ならんや。況んや朝鮮の中央都市とし半島統治府所在地たる京城の如き市街不整頓にして其道路は劣惡を極め中央都市としての面目を毀損することの大なるを事實上に現示せる地に於てをや。吾人は此見解よりして、政府は既に京城市街改善の責任あるを自覺しをれるも國費多端の折柄とて、之を公けにするを躊躇しをれるにあらざるやを想はずむばあらず。然るに京城民團の建議は能く國家の財政を斟酌し、經費の半額は民團及び沿道土地所有者にて負擔し可及的國庫の支辨を少ふせんことに考慮せり。これ實に時宜に適せるの措置なるは勿論、市民が如何に半島中央都市の改善を計らむとするに熱心なるかをトするに足るなり。於是乎、吾人は此際政府は躊躇逡巡することなく、熱誠籠れる京城民團の建議を容れ、一は政府自己の責任を果し、一は之によつて殖民地都市の發展を進めんことを希望して止まざる也。

輿論に顧み吾人は民團の人々に向つて建議の目的を達せんには、單に民團理事者のみに放任せず、益々一致戮力し最後の所にまで到達するの勇氣なかる可からざるを勸告す。

外國特電

伊土戰爭問題

▲伊軍撃退さる 伊太利軍はプレヴエサ灣より上陸を企てしも土耳古軍の爲め撃退されたり(羅馬發)

▲伊軍益進撃 羅馬來電に據れば伊太利艦隊はトリポリーベンガシーの諸港を砲撃し尚ニコポルスを砲撃せんとす(桑港發)

▲陥落後のトリポリー 羅馬來電に據ればトリポリー首都は遂に四日を以て陥落せるが伊國は既に國旗を天空高く翻し居れり同港內には悉く水雷を布設しあるを以て軍艦上陸するには警戒を怠らず伊國應援隊五萬は七日出發し十日トリポリーに到着すべし(伯林發)

▲プ港砲撃開始 伊國艦隊はプレヴエザ知事が灣內の土耳古艦隊引渡の要求に應ぜざりし爲め六日益々砲撃を開始したり(伯林發)

▲墺國の干渉來らん 伊國のプレヴエザ灣砲撃に關して墺國と國際紛爭を惹起すべしと期待さる(同)

▲土國政府電訓 土耳古政府は伊太利船舶を發見次第捕獲所を問はず報告すべしと各地へ電訓せり

▲伊國戰鬪艦沈沒 伊太利戰鬪艦一隻トリポリー附近に於て敷設水雷の爲め沈沒せり(紐育發)

▲希臘の動員 希臘政府はサロニカ、モナスチールに於ける土耳古軍動員に對しテサリー方面に歩兵二個大隊動員せり(倫敦發)

▲土艦隊の到着 土耳古艦隊はダーダネルス海峽よりボスフラス海峽に到着せり(倫敦發)

▲土軍決死隊組織 伊太利軍のトリポリ占領に對し土耳古軍は決死隊を組織し對抗準備中

東京電報

▲關稅政策新展 政府は關稅政策の一發展を必要とし目下調査中なるが近く何等かの形式に於て一新展を見るべし

▲墺國議會椿事 墺國議會に於てダルマチヤの社會黨員ピストルを以て司法大臣を五發狙撃したるも幸に的中せず法相は無事なるを得たるも文相は流彈の爲め輕傷を負ひ犯人は直ちに逮捕せられたるが一時は頗る混雜したり尙該連累者に關し嚴重に取調べ中

▲海軍行政整理 國民黨政務調査局理事合田代議士の質問に對し財部海軍次官は左の如く答辯したり
明治四十五年度製艦擴張費は更に要求すべく行政整理は老艦の處分を爲すべしと

▲遣暹宮御乘艦 暹羅皇帝戴冠式に御名代として參列の東伏見宮殿下には伊吹艦に御座乘碇艦供奉する事に內定したり

▲佐賀縣知事更迭 七日左の如く交迭ありたり
任佐賀縣知事敍高等官二等 東京府事務官 從五位勳六等 不破彥麿
休職被仰付 佐賀縣知事 正五位勳四等 西村睦夫

▲濟生會寄附額 大浦平田前大臣は各一千圓宛現金を以て濟生會に寄附したり本日迄に纏りたる金額は二千四百四十一萬六千五百六十五圓にして未報告の分は鹿兒島、大分、磐手の三縣なり

▲名馬トウゴウ獻上 東郷大將は過般米國に於て歡迎を受けたる際同地に於て名馬トウゴウを寄贈せられたるが同大將は右駿馬を長濱に獻上の手續きを爲したる由宮內省にては主馬寮赤阪分廐所に於て飼養する筈なりと

▲前田造船監危篤 海軍造船總監從五位勳四等功四級前田亨氏は病氣危篤の旨天聽に達し正四位に昇敍されたり

雜報

●總督一行馬關着

寺內總督の一行には豫定の如く六日夜馬關着同地に一泊したるが七日午後七時頃馬關發八日朝釜山より特別列車にて午後四時當地に着すべしと

●海底電線の買收

遞信省にては韓國併合後十六万圓を投じて丁抹太平洋電信會社の釜山海底線の買收をなし我外國通信系の一部に編入したるが同社の敷設に係る長崎上海間四百六十七哩長崎浦塩間三百五十五哩の長距離營業獨占權が四十五年六月二十三日消滅するを期とし之を買收し料金の低減を行ひ以て一般の利便を計る計畫を立て居れり同社總支配人ハウンラン氏は來る十月横濱入港のモングリヤ號にて來朝當局と交渉する由なり

●恩賜公債買入高

併合の際鮮人に下賜されたる恩賜公債は總督の許可を得て朝鮮銀行が買入れたるもの九月中に六十五萬圓にて最初よりの買入れ總高約五百萬圓に達したりと云ふ

●受渡代用米問題と當局

農商務省の諮問に對し全國取引所聯合會に於て否決されたる朝鮮代用米問題に關しては朝鮮商議聯合會は極力右採用されん事に奔走しつゝあるが農商工部に於ても實地調査の上農商務省に交渉すべしと云ふ

●鮮銀九月中の成績

朝鮮銀行に於ける九月中の入金は二千六百七十八万八百九十二圓にして出金二千五百六十八万九千二百三十五圓なるが預金百二十六十万二千百二十一圓貸金三百六十四萬八千九百六十五圓爲替受金二百八十七萬八千百五十九圓同拂金百十六萬五千六百五十五圓なりしと

●民團稅制調査案(一)

昨紙所報の如く京城民團稅制調査囑託委員の調査に係る立案は既に各委員より民長の手許に提出し民長は是等の立案を參酌して更に別個の案を立つる由なるが今左に一般の參考迄に之れが委員の調査案を掲ぐべし而して最初戸別稅に關する調査を囑託されたる田村義次郎曾我勉兩氏の調査に係る談話を掲ぐれば左の如し

戸別稅の賦課標準基礎を納稅義務者の住家賃貸價格とし累進制に依り賃貸價格の高きものは比較的多額を課し是れと同時に一方には或る程度の低額なる賃貸價格を以て免除點となし夫れ以下は免除する事又住宅の賃貸價格にして居住者の資産に比し低額なるときは其の資産の總價格を參酌して之れを增加し得るの條文を戸別稅則中に設け以て極端なる脱稅者を拒くことゝなすこと又官公吏會社員等にして一定の俸給又は毎年若くは毎月確定したる報酬を受くるものにして其の收入額の明瞭なるものは住家の賃貸價格に依らず其の俸給又は報酬額を基礎として課稅することを得ることゝなすを至當とす、而して其の累進制を採ることゝ及び低額の收入に對して免除點を設くることは前記住家賃貸價格に據るものと同一に一又株式會社合資會社等にして株主又は出資者に向つて毎年執行するところの損益計算に依り利益勘定の明瞭なるものは或る稅率を定め戸別稅を課すること次に稅率を定むるの標準は大要將來調査して得る所の課稅物件の價格即ち京城居留民團內各戸住家の總賃貸價格の總高及び俸給又は報酬並に會社の利益金の總高に對し明治四十四年度豫算に掲上する戸別稅の總額を徴收し得ることを以て其の程度となすこと等であるが但し戸別稅の賦課は住家の賃貸價格一定の俸給又は報酬及び會社の利益金に課するが如く三者各其の課稅の基礎を異にするに依り三者其の稅率を同一にする能はざるは勿論である而して會社の利益金に對しては累進制を採らず又免除點を設けざるがよい更に住家の賃貸價格を算定するに當り別宅又は別莊等を本宅の賃貸價格に合算するは言ふ迄もなき事である

尙附言として述べんに營業稅も亦戸別稅と同じく何等の確立せる課稅標準なきに依り戸別稅と均しく其の店舖倉庫又は納屋等の賃貸價格を標準とするを適當とする而して戸別稅と營業稅とは是れを合一し住家用家屋と營業用家屋とを合同し之れを戸別稅なる稅目の下に課稅するを適當且つ便宜なりと信ずる又雜種稅と戸別稅とは同一の納稅義務者に併せ課するがよい而して或る種の營業にして從來戸別稅と雜種稅とを併せ課したるものは戸別稅の改正と同時に其の營業の狀態に依り兩稅の內何れかに專屬せしむるを要す故に戸別稅及び營業稅の改正は雜種稅にも相當の改正を加ふるの必要を生ずる事となる又民團稅を英國の地方稅の如く不動産收益稅として徴收するは最も適當の方法なりと信ずるも目下の事情之れを許さないされど既に土地稅ありて家屋稅の制定なきは頗る權衡を失せるものといふべし且つ家屋稅の如き私的經濟收入の重要なる財源を無稅となし置くが如きは穩當の處置でない故に在京城母國人所屬の家屋を漸次調査し輕微なる家屋稅を課し戸別稅の偏重偏輕となるの弊害を矯正するの具となし後日民團の財源を專ら不動産收益稅に取り得るの基礎を作り置くを必要なる事と思ふ終りに土地增價稅及び相續稅を設け臨時費の財源に充當するの計畫を立てることは蓋し肝要のことであらう

●前月中の京城商況

京城日本人商業會議所調査

米價は依然高値を唱へ居りしに中旬に入り一上一下頗る亂調を呈せる爲め思はしき取引を見ず隨て出廻も捗々しからざりしが各地方とも農作の豫想稍々確定せし以來氣配俄に落ち漸次下落の一方にありて一般市場は漸く愁眉を開くに至り其結果冬物綿布、綿糸、石油等の輸移入著しく增加を見ると共に賣行も又增進したりしが一面歐米雜貨類は中元賣出の後を受け其の反動としてめつきり賣行減少し殊にビールサイダーの如き水物類の需要は季節柄大に賣行を減少し大口の取引は皆無の姿なりき尤も二九の月は水物類の到つて閑散なるは毎年の例なれば憂ふるに足らず寧ろ本年は前年に比し約一割五分方の增加を見たり又生果類は時節柄漸次出廻り增加し好況を呈したるに反し砂糖麥粉類に於ては前月より約一割方賣行減少したると共に菓子類の如きは次第に不振の傾向を示せり亦朝鮮側を見るに市場稍活氣を呈しシーチングの如きは前月より約四割五分方の賣行增加を見るに至れり一般の商況は前月に比し大同小異にして著しき變動を見ざるも新米豆の走り中旬頃より弗々出始め冬物も時期稍々早きに拘はらず各店に於て廣告賣出を爲し可也の景況を呈して越月したり

●煙草の需要及び生産

朝鮮に於ける煙草の生産額は約四百三十万貫にして價格三百萬圓に達し其他內地よりの移入淸國及米國よりの輸入合計年百十萬圓餘なるが製品は內地より東亞煙草會社の移入と上海より英米トラストの輸入にして其他は葉煙草のみなり尙安東縣及新義州方面には支那葉の密輸入少なからずとの事なり而して朝鮮人の耕作者より徴收する耕作稅は一年二十萬圓販賣稅は四萬圓にして國稅の收入としては目下甚だ微々なりと

●東京朝日輸入禁止

去る四日發行の東京朝日新聞は治安妨害と認められ朝鮮內に於て發賣頒布を禁止されたるが思ふに同紙上朝鮮總督專任論を掲げしが其筋の忌諱に觸れしならん

●會議所役員會

當商業會議所にては來る十日頃役員會を開き道路擴張問題及代用米否決並に商工調査會に關し役員會を開く由

有賀道事務官談

…漣川及揚州出張に付て…

漣川及揚州は京元線敷設工事を縫うて散在し急造旅舍、料理店などありて白首出沒し頗ぶる活氣を呈し居れり、揚州出張の用向は附近三郡々參事會に臨席する爲にして該諮問會は産業、學務、地方事務等に關する意見を聞き又は訓示する爲め毎月一回宛會合する規定なるも多忙の爲め勵行せられ居らず郡參事は地方の名望學識ある者の中より任命するを以て彼等は何れも相應事理に明なり揚州へは恩賜授産場修業第一回の修了式に臨まんが爲出張せしなり同授産場は養蠶柞蠶養鷄及座繰製糸を兩班儒生等の徒食者に敎へ自活の途を與ふるを目的とし學修員に對しては勗めて實業的勞務に服せしめ其實績に重きを置き着實なる氣風の養成に努む柞蠶は天候及び害虫等の天災に左右せられ效果豫測すべからざるも勞力資本を要せざる故之を講習せしめ、養蠶は成繭販賣又は大規模製糸の如きは頗る困難なるを以て成繭は之を京城府婦人恩賜授産場に送らしめて此處に製糸する事となし追々は全道養蠶の發達を俟ち確實なる道産物の一となさんと欲す猶學習員等には地代、器具、家屋、桑等に至る迄補助し給與して勤勉の風習を作らん事を期すと云々

●仁川商議總會

仁川商業會議所にては九日午後七時より民團樓上に於て總會を開き議案は明治四十五年度豫算に關する件、同四十五年度賦課金徴收方法に關する件、定款改正の件等也

●道路擴張期成會

七日午後六時より壽町商業會議所に本町道路擴張委員會を開く筈

●京都觀光團來る

京都日出新聞社主催にて同地實業家約三十名來る十一月三日發朝鮮觀光の筈なるが內地より釜山、馬山、大邱、仁川を經て十三日頃入京の豫定なりと

●京畿道の殖林

京畿道にては來春四月迄に京城附近の兀山四万八千圓に對し砂防工事を施行し百六十萬本の殖苗をなす筈なるが此の面積一千町なりと云ふ

●全南産麻額

全羅南道に於ける大麻の作付反別九百八十一町にして同苧麻の作付反別百九十九町三反歩同産額八千五百六十六貫なり

●津輕艦仁川入港

士官候補生六十余名を乘せたる津輕艦は六日鎭海灣を發し來る十一日仁川入港の筈なりと

●民團決算審査會 京城民團にては引續き來る九日午後三時より四十三年度決算の審査委員會を開く筈

●大槻稅關長歡迎會 度支部關係者一同は七日午後七時より花月に於て漢城銀行及朝鮮側銀行は九日鮮和龍氏の宅に於て朝鮮銀行は十一日翔翠にて何れも目下入京中の大槻稅關長を招待し歡迎の盛宴を催ふす由なり

●明石總長出發 明石警務總長は七日午前九時南大門發寺內總督出迎の爲釜山へ急行せり

●佐々木課長歸任 出張中なりし土地調査局調査課長佐々木藤太郎氏は六日午後八時十分南大門着歸任したり

●鹿兒島農林校生觀察 入交、草野の兩敎授に引率され六日午後八時十分入京したる鹿兒島農林學校農科生二十四名は三ケ月旅館へ投宿七日より入京市內各所を視察し九日仁川より船便にて歸國の由

●指紋法の講話 警務總監部にては七日正午より同部道場に於て警察官及憲兵一同を集め司法部安住書記官の指紋法に關する講話ありたり

●京畿道甘藷の成績 京畿道にては去る六月管內各府郡に對し三十七萬本の甘藷苗を配布したるが其後成育極めて良好にして目下各府郡共收穫中なるが約二萬貫の豫定なりと

公人私人

▲佐々木藤太郎(總督府書記官) 六日歸任
▲大槻龍治(大阪稅關長) 六日天眞樓へ
▲宮地高敎(陸軍二等軍醫) 六日山本旅館へ
▲小鹿島饒(農銀支配人) 六日釜山行
▲吉尾學(醫師) 六日水原行

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
十月七日	二一四、〇八七、五八〇	六五五

▲茶袋▼

伊土兩國の戰爭について何れが貿易上の損害を受けるかを調べて見ると、伊國の土國に對する輸出總額が千九百九年に五千七百六十一萬七千四百六十二ディレで土國の伊國に對する輸出總額は同年四千六百五十一万六千二百二ディレに達してゐる、之によると兩國間の輸出品は可なり多額に上つてをるが其品類別から云へば伊太利から土耳古に輸入せるものは製造品が多額を占めて居るに反し、土耳古から伊國に輸入する物品は原料品が其主位を占めてをる、依是判斷すれば今回の戰爭に於て貿易上から受ける損害は伊太利の方が遙かに勝つてをる▲朝鮮常設師團問題は大藏省側で受附けぬのみか、西園寺首相が一向氣乘りがせぬので、追がの軍人側も弱つてをるらしい、ソコへ附込んで例の官僚派の面々が軍人の腰を押し、之を以て現內閣ブッ潰しを目論見んでをるそーだが中々うられ易くはまいるまいよ▲稅制整理といふ事は大は國家、小は町村に至るまで最も大切なことである、ソコで古城京城民長は昨年民會議員と民團から十四五名を拔いて稅制整理の立案を囑託した、所が眞面目に腦漿を絞つて研究せる者は僅かに指を屈するばかりで、中には稅制と云ふ事がテンと頭に入らぬ者があるかと思へば他の立案にケチをつけるのを本能としてをると云ふ有樣で民長の手許へ答申が出たのは極めて少ないそーだ、ろして不眞面目な連中がエテ民會議員中に多いとは呆れざるを得ない。



●新町高野山別院の三十分(二)　白面子

十月一日午後五時

梵妻君の猛烈なる質問に閉口して一寸用達に行つて來ると旗を巻いて新町の某家に退却した白面子は午後四時半頃電話を以て『和尚さんは歸られましたか』と問合せた電話番號は千六百九番だ『和尚は只今戻りました』との答へを得たので何かの材料に成だらうと其家の妻君の襦袢を借受け此を懐中して再び高野山の本堂に現はれた、堂内に入ると第一番に眼についたのが滿華亭今奴の大提灯で三張までブラ下つて居る、寄附を催促する如に金品寄附人名の札が掲げられたるは勿論と知られたい、時計を見ると四時五十五分だ、暫時すると香染の衣を着けた四十格好の坊主が出て來て默つて白面子の前に座を構ねた面魂が既に僧侶と云ふ柄でない『今日は初めまして』と僕が叮嚀に挨拶をするのに返辭も碌々しない超世間なのか横着なのか、三十分の後に本性は見屆けられるのだ、何か云ふだらうと待つて居たが一言も話をせぬ、クルリ白面子に尻を向け佛前に向ひ乍ら『何のれ御鬮か』と只つた一言『妻の事で……』と答へる『妻が何うしたのか』宛然深夜非常線へ掛つた樣だ息も繼せず尋問する、僕の意見では斯う矢繼早に尋問されるとは思つて居なかつたので一寸答に困つて躊躇せざるを得なかつた『實は其……』と云ひ淀んで二の句を考へて『お恥かしい次第ですが内地に殘して置きまし妻が四五日前當地へ參りました、見ると懐妊して居る妊娠中道中した爲でもあらうか昨夜から發熱してウン〳〵唸つて居るのです夫れには何も不思議はないが不思議は妻の妊娠にあるので果して自分の子か否やを疑つて居ますが自分の子と決れば病院へでも入れて遣らうと思ひまして御鬮を頂戴に出ましたので』と若しい言を云ふ、和尚の質問は愈々嚴重になつて　和『妊娠は何ケ月か』白『五ケ月です』和『何故疑ふか』白『自分の胤と思へぬからです』和『全体君は何時渡鮮したのか』白『一昨年の七月だが本年四月歸省して今の妻を貰つたのです』和『歸省した日は何日で結婚した日は何日か』白『歸省したのが十八日で結婚したのは二十一日』と答へ『未だ何か訊くかしら面倒臭いこと此上なしだ』と思つて居ると和尚は唐突にガンガンガンと鐘を叩いて盛んに南無遍照金剛を繰り返す　悪戯者の白面子も聊か薄氣味が惡くなつた併し佛を欺く心ぢや無いのだからと思つても氣持が好くないので懐中から二十錢玉を取出て賽錢箱へ抛り込んで思はず南無遍照金剛を唱へた、彼れ程承知して居ながら既に二十錢を和尚が寢酒の料に寄附させられた、和尚は其賽錢の音に景氣付いたのか盛んに經の文句に面白い樣な節をつけて讀み立てること十五分斗りで又候ガン〳〵と鐘を打ち鳴らし終りて御鬮を引いた、サア凶か吉か(つゞく)

●論より證據薬人形

▽即決例の有罪が無罪

犯罪即決例非難に對し某當局者は堂々と辯解されつゝあるが社會に於て非難あるは事實なり本年一月より本月七日迄に京城區裁判所に正式裁判を仰ぎたる即決事件九件にして無罪六件有罪は三件にして内一件は拘留處分が科料に變じたる位なり茲に長谷川町一丁目五十四番戸渡邊印刷所雇人東京市士族堀悌次(二五)は九月十八日午後五時半頃袒裼したりとて告發され其の際住所の五十四番戸を四十八番戸と不實の申立を爲したりとて過料金五十錢に即決を受けしを不服として正式裁判を仰ぎ京城區裁判所喜頭判事野田檢事の係りにて公判の結果無罪となれり

●夫婦で二人三脚

▽留守中に賊が入る

仁川寺町二丁目橋西德一郎(四九)は好い年をしながら毎晩妻と一緒に二人三脚の体で公園地附近の散歩に出掛けよく人目にふるゝ評判者なるが數日前も同樣家は空留守と來て居るので賊が裏戸を押明け奥座敷に忍入り衣類十數點價格百餘圓を窃取し逃走したる後德一郎夫婦が歸宅し表戸の鍵の明け中に入りたるに閉た筈の裏戸が開て居るので賊が入りしには非ずやと奥の戸棚を調べて見るとコハ如何に大事の衣類が全部失せて居たので驚て其の筋に屆出たるより刑事が搜査の結果臓品は仁川本町四丁目中島留店及新町小松質店に入質しありたるより忽ち品物が戻りたれば橋西夫婦は大喜悦ウッカリ散歩も出來ないと其後は大に謹愼し居るとの話其他仁川仲町岩本健甫方にても二三日前留守中に洋服及衣類數點窃取され屆出でたる等被害頻々たるより各自戸締等大に注意すべきなり殊に八日は仁川各學校の運動會にて市民は全部見物に出掛けるは例なるが物騒の際なれば十分注意肝要なり

●賊を逸して馬を獲

▽被害者の僥倖

六日午後十二時より龍山警察署の巡査補徐東珍、柳奥善の二人が萬里倉の踏切りに潜伏警戒し居りたるに七日午前二時頃一鮮人馬を引きて麻浦方面に行くを認めたるより誰何せしに忽ち馬を捨て置き逃走したり二巡査は追跡せしも遂に見失ひたるが此馬の持主は龍山東町一丁目九十五番戸笹谷欽吉にして六日夜馬舎に置きたるを何者にか窃取せられたるものにて龍山警察署へ訴出でたる處右の馬(價格七十圓)は幸に警察署にて保管中なるにより六日午前欽吉出願引取りたり警察署にては遺憾ながら犯人を得ずして馬を得欽吉に取りては望外の仕合せなりし

●秋季種痘施行日割

六日より十日迄の割當區域は既報の如くなるが十一日以後の日割左の如し

▲十月十一日(花園町日韓禪寺)本町七、八、九丁目、花園町、櫻井町、永樂町二、三丁目、若草町、竹園町▲十月十二日(花園町日韓禪寺)大和町、壽町三丁目、日の出町、本町五、六丁目、新町▲十月十三日(御成座に於て朝鮮人側)盤石坊、花芝坊全部▲十月十四日(薫陶坊校洞七十一統一戸金永均方に於て)薫陶坊、誠明坊、樂善坊、全部▲十月十五日(羽衣町鳳鳴學校)養生坊、皇華坊、會賢坊、明禮坊、全部

●殺人元巡査の判決

社會主義者吉田龍郎を殺害したる元巡査小田原修介は檢事の求刑二年なりしが懲役三年に處せらる

●神來畫伯の遠征

當地在住の畫伯天草神來子は鎮南浦有志の招きに應し昨冬來の作品中の會心の作百有餘點を携へ彩管を載せ秋風に駕して十五日同地へ向け出立すべしと猶歸途平壤にも立ち寄り同地有志の請に應じて神來の妙腕を揮ふべしと云ふ今や大同江畔秋酣なり詩によし畫によし更らに大に酒に可なり、餘りに飲んで歸るを忘るべからず

●龍山に赤痢患者　本籍山口縣大島郡當時龍山本町三丁目百十七番戸婦人ホーム方同居松田サク(十八)は六日赤痢病に罹り收容せらる

●バケツ一個を窃む　南大門外居住擔軍金德成(三二)は壽町一丁目五十二番戸桐原梅太郎方にてバケツ一個を窃取し檢事局に送らる

●パゴダ公園の奏樂　同園音樂堂に於て八日午後七時より軍樂隊の日曜演奏ありと

●仁川の迷子　仁川龍洞八統九民朴圭一の長女朴長順(五つ)は六日午後四時頃外出の儘行衛不明となり屆出づ

日曜集會

▲メソヂスト敎會　旭町二丁目同敎會にては八日午前九時より日曜學校同十時より禮拜説敎午後七時より傳道説敎あり演題左の如し

朝、禮拜説敎　木原部長

夕、ヤコブの夢　藤岡牧師

▲京城基督敎會　南大門内相生町同敎會にては八日午前十時より禮拜説敎夜七時半より傳道説敎あり參聽隨意演題左の如し

朝、なは其一を缺ぐ　丹羽清二郎君

夜、來て見よ　松本雅太郎君

▲臨濟寺　初音町二丁目の同寺に於ては八日午後三時より達磨忌執行茶話會を開催せらるゝ由なり

●日曜めた天氣ならば

▽れ父様やれ母様ど何方へ

西大門外を出で右方を望むと赤に白に紫に紅に滿山悉く彩られたる小丘を見るであらう、之れぞ菊培養で有名な酒見金華園の秋櫻が其花唇を綻ばしたのである、霞か雲かと眺めらるゝは未だ此所三五日の後でなければならぬ、併し滿開時に滿開時の趣きがあるが如く未だ全く咲き揃はぬ所にも又其趣きのあるものであるから行厨の御用意位なさつて御家族方と共に日曜の一日を樂しまるゝも可からうし、又植物園、動物園の御見物、東大門外清凉里邊の八千草の花いろ〳〵に哀れ深さを賞で虫の音の心の濁りを澄ますも可なるべく水口門を出ては纛島の水源地を見て附近農場の一見も可かるべし近くは漢陽公園、獎忠壇、寶六庵に栗飯、松茸飯を味はるゝも宜かるべし

西洋奇話

ぼろ靴一足の價金十圓　堅牢は第一の販賣條件と領いた職工專門の靴屋さんが大に奮發してボロ靴一足金十圓に買取る廣告を出した而も其買入れる靴はボロさ加減の最も酷い靴一足に限ると云ふので物好にも程があると四方より持參せられた古靴實に五百足に達し、靴屋は吾が領營れりと右の古靴を陳列室の一部に積上げ其周圍に自店製造の新靴を置き列べて比較對照法を活用した上に巧妙の說明札迄も添へ向此古靴を如何に處分するかは賣出し後一週間内に掲示すべしと貼札し其時に及んで無收せる古靴は養育院へ寄附せりと同院の受領書を併て貼出した



眼につく秋の七草に拾ひ予通はす紙衣しの文字摺り亂るゝ雁の玉章に便りを聞かん封じ文認めつゝあるは此の頃京城券玉家より現はれたる三光▲落葉ひろ〳〵落葉が中に好た銀杏を取上げ髪の結へば姿も初々しく名さへ靜江と名乘り同席い京の妹分として現はれしは昨日迄掬翠樓の鄙江なりい京組さんが出となら私も連れてと泣き付いての鞍替へしたる次第なり▲家法や規約を確く守ると誓つて菊家より現はれたるは豢之助とて當年二十五才の女盛り▲清水席よりは峯松、三四吉の美しい妓▲あら嫌やよあんな事を商産會社の小林の旦那は贔負になるのよ色氣はなくつてよと色氣ありげになるさうな事を言つて罪の無い可愛い妓は蔦屋の雛子▲錦蝦樂の蜻蛉は菊家の菊枝仕込みで舞が巧く程上達したり▲井門本店より助六とて老妓が現れ申候(鄕雀)

●京城券番妓員總會

▽白水の大廣間が議事堂

京城券藝妓の顔合は既報の如く六日午後券番に勢揃ひをなし五十餘臺の車で白水に乘込み一同座に着く世話人の挨拶が濟む取締文之助より券番の發展策及び藝妓連は風紀を紊し其筋の厄介にならぬ樣等注意を述べ幹事篤家の吉彌外五名も交々立ちて意見を述べ後酒宴に移りたり當日の餘興委員長い京の指揮の下に若手連の手踊り等ありて一同記念寫眞を取りたる後精養軒に押かけ見れば辻屋青木堂の寄附なるビールの樽擬店あり其他しるこでん酒燒菓等の模擬店あり頗る盛會なりき

●仁川紅筆たより

仁川券番の合邦が横眼と來たら有名な者にて初めての客などは藪睨ぢやないかと思ふ位猛烈に横眼で秋波を打つ掛ける其容子と云つたらない手飼ひから仕上げた腕は豪いものだと何か貰つたらしい口吻で褒めて居る人がある▲一富士の久子はアノ白い長い……南京米の如な糸切歯を出して笑ふ時の愛嬌と來たら堪つたものでない其斷爲か近頃の席順は何月も一番だと云つてる人があるが夫れ斗りちやどんせぬ哩▲入阪の桃太郎曰く赤坊が欲しいけど腹が痛いから否、と云ひながら間食は盛んだ▲同樓の生駒は大の孝行者で寺町邊に住へる老母を痒い所へ手の届く程勤り侍いて居るのは感心なものだ▲一富士支店の初子は黒襦子の帯を一圓五十錢で質に入れたが今月の十日限りで流れると云つて大心配をして居るが算段がついたかしらと共々御心配申上げる(仁川烏)

●演藝だより

▲壽座　益々好人氣を博しつゝある後藤良介一行入日の演し物は七日と同じく最も得意とする『巳が罪』なること七日に同じ此の劇は從來度々演じ來りたるものなるが流石に後藤一行の夫れは大に趣を異にし居れりと就中後藤の和田た作、藤田のたまき、内田の櫻戸子爵、雪岡の塚口虔三等は各自其柄に篏りたる役なれば殊に見物なり伺九日の代狂言は東京報知新聞連載の『綠衣』全十場なりと

▲歌舞伎座　エムパテーの活動寫眞にして特等を除き大人二十錢小人十錢の均一制にて早いもの勝なり

▲御成座　片岡鶴之助の浪花節芝居にしてナカ〳〵の大人氣なりと

▲浪花館　吉川今勝一行の浪花節にして八日より光廣の讀物は『安中草三郎』

廣告

斷水廣告

京城水道配水池掃除ノ爲本月十日午前二時ヨリ同五時迄場所ニ依リ斷水スルコトアルヘシ

明治四十四年十月八日

京城水道內務部

